

2011年9月21日（水） 9:00-9:15

2日目の趣旨説明

出井伸之 クオンタムリープ代表取締役ファウンダー&CEO

3月11日の東日本大震災を機に、3つの日本の姿が浮き彫りになった。1つめは迅速な産業復興、2つめは秩序・助け合いの精神、3つめは課題だらけの体制である。はじめの2つはポジティブなポイントであった。しかしながら、3つめの課題だらけの体制のために、震災から6ヵ月経つにもかかわらず、現実として復興はなかなか進んでいない。昨日は、今、日本は大転換できるかできないかの境目にある、ということが主な議論の内容であった。

あるアメリカのトップエグゼクティブと電話をした際にも、日本の変化について話が及んだ。最近、アメリカで「日本は変わらないのではないか」と訊かれるので、氏は「いや、首相が毎年変わっている」と答えるそうだ。また、ワシントンでは政治・行政機関が決断をしないことを「日本化」と呼ぶそうである。

昨日挙げられた課題は、3.11後もそれ以前の仕組みで官が動いていること、政府の透明性がないこと、政府の金の使い方が悪いことなどがある。民主党はマネジメントをしたことのない人が多く、全て自分でやらねばならないと誤解している人がいる、という旧官僚の指摘もあった。

「動かない日本」に対して地方と東京の行政が何を考えているのか、福島県知事と東京都副知事にも意見を伺った。福島県知事は、「原発事故前には、福島は世界に全く知られていなかったが、事故を機に世界的に有名になった。それを機にクリーンエネルギーを推進したり、放射能除去のためのメディカルセンターを設立したりして負の側面をプラスに変えていきたい。」とおっしゃっていた。東京都副知事は、「なるべく地方分権を進めていきたい。東京では天然ガスなど系統外の発電システムを構築したい」というお話をされた。

私が行った名取市では、瓦礫だけはきれいに片付いていたが、その先のビジョンがなく立ち止ったままであった。昨日の午後のセッションにおいては、その先に繋がる東北のスカイビレッジや21世紀型のスマートビレッジ構想について様々な議論が行われた。

昨日、今日2日間のフォーラムをきっかけに、少しでも具体的プロジェクトが進むことを望んでいる。(了)